

【平成28年度指定型研究(ヘルスリテラシー促進研究)】

(1) 小児及び保護者の野菜摂取に関わるヘルスリテラシー向上のための教育プログラムに関する研究

研究の目的

近年、国外では野菜摂取の向上にヘルスリテラシーの向上が関連することが報告されている。青森県では県民のヘルスリテラシーの向上や小児期からの野菜摂取習慣化が課題であるが、その関連についての報告はない。

本研究では、日本人小児と保護者の野菜摂取とヘルスリテラシーとの関連を明らかにすることを目的とした。

研究方法

2017年1-2月、青森県G市の3小学校及びM市の1小学校に通う5-6年生と保護者のペア314組を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。回答数210組のうち、全質問項目に回答し欠損のなかった150組を解析対象とした。調査項目は、ヘルスリテラシー、野菜摂取の知識・態度・行動、属性項目で構成した。回答を得点化し、野菜摂取項目得点とヘルスリテラシー項目得点を算出し、Spearman相関係数を用いて相関関係を分析した。

調査結果

小児の野菜摂取項目得点とヘルスリテラシー項目得点間に有意な正の相関関係が認められた($r=0.51, p<0.05$)。保護者においても同様の関連が認められた($r=0.49, p<0.05$)。小児の野菜摂取項目得点と保護者のヘルスリテラシー項目得点間にも有意な正の相関関係が認められたが、相関係数は低い値であった($r=0.21, p<0.05$)。保護者の野菜摂取項目得点と小児のヘルスリテラシー項目得点間の関連も同様であった($r=0.28, p<0.05$)。

まとめ

本研究の結果から、小児と保護者の野菜摂取には本人のヘルスリテラシーが強く関連することが明らかとなった。小児の野菜摂取を向上させるための教育プログラムにおいては、本人のヘルスリテラシーを高める取組がより効果的である可能性を示唆した。